

Z306a 「時の記念日」と東京天文台

井上毅（明石市立天文科学館）

6月10日は「時の記念日」である。時の記念日は1920（大正9）年に東京教育博物館（現国立科学博物館）で開催された「時」展覧会が契機となり誕生した。「時」展覧会では、東京天文台や逡信博物館等の機関や個人などから出品された時に関する多くの資料を展示され、約22万人の来館者があった。会期中に時間励行の呼びかけを行うことになり、天智天皇による日本最初の報時の日（671年6月10日）を時の記念日と呼ぶことになった。当日には、正午に東京中の鐘が一斉に鳴らされたり、東京天文台の標準時計で東京各所の時計の時刻の正確さの調査が行われたりして、大きな話題になった。時の記念日や「時」展覧会の状況は天文月報（1920年第13巻5-8号）で詳しく紹介されている。「時」展覧会の出品物は関東大震災や戦災を経て大半の資料の所在は不明であるが、調査の結果、国立天文台天文情報センターには東京天文台からの出品物と考えられる暦資料9点の他、経緯儀など当時の出品物である可能性が高い観測機器を確認した。本発表では時の記念日の誕生に果たした東京天文台の役割と2020年「時の記念日100周年」企画について紹介する。